

空軍ニュース：SU-35 の対中輸出交渉に見る中露関係

漢和防務評論 20141102 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

漢和防務評論 20141102 の記事を紹介します。

ウクライナ情勢がロシアの対中急接近を促し、交渉が進まなかった SU-35 の対中輸出交渉はトップ会談で決着を見たようです。中国は見返りに天然ガス価格で譲歩したようです。このように中露は戦略的な協力関係を強化していますが、狙いは対欧米にあることは明白です。

SU-35 の輸出に際し、ロシアは自国に有利になるような方式、すなわちある程度の輸出機数を確保し、修理はロシアが担当する方式で輸出しようとしています。中国はロシアの足元を見て、前例のない方式、すなわちロシアが中国の要求に基づいて改修した機体を輸入する方式を求めているようです。

ロシアはコピー防止に頭を痛めているとのこと。

KDR ロンドン平可夫特電：

今年（2014 年）の 2 月から 7 月までの僅か 5 ヶ月間で、中露の政治的結び付きが急速に強まった。これは SU-35 の対中輸出交渉が急速に進展したことからも断言できる。ウクライナの危機は、軍事、政治、外交面における中露急接近の大きな要因となった。今年 2 月、ロシア軍事工業界の権威筋を取材した際、彼は SU-35 の対中輸出問題について次のように述べた：現在、交渉の行方は不透明だ。我々は急いでいない。プーチンは当然政治的に中国を必要としているが、これは軍事貿易の分野ではなく、政治の分野である。夏になれば、SU-35 の対中輸出交渉は明確になるであろう、と。

この時の取材では、その他のロシア軍事工業界の責任者は、依然として SU-35 の対中輸出に慎重姿勢であり、コピー防止問題が頭痛の種であると述べていた。しかしこの僅か 5 ヶ月の間に、プーチンと習近平の会談が何度も行われた。中露両国指導者による集中的な会談は初めてであった。7 月、両者は、ブラジルで会談し、軍事、航空宇宙領域の協力問題について話し合った。5 月、両者は上海で会談し、プーチンは、習近平が中露関係を自ら推進していることに感謝した。プーチンは、中露両軍の協力が極めて重要であることを強調した。

これらの背景の下、5 ヶ月後、KDR 記者は再びロシア軍事工業界の権威筋を取材し SU-35 の対中輸出問題について質問した。

KDR は、まず技術のコピーを如何に防止するかについて質問した。中国が最も

関心を持っているのは修理の問題である。彼は中国による SU-35 の修理について、” 今度はウクライナの支援は受けられない。全てロシアの支援が必要だ。価格の折り合いが難しい” 等々と述べた。

また彼は、” ANDREI (平可夫氏のカナダ名)、君の述べたこれらの問題は採るに足らない些細な問題である。SU-35 の問題は、すでに両国最高指導者の決定事項であり、現在我々の職責は彼らの要求を履行し、交渉を加速するだけである” と述べた。

したがって 6 月にはすでに中国総参謀部総装備部部長がモスクワを訪問し、SU-35 及び空軍訓練部隊を視察した。” 彼は各種訪問活動中、常にタバコを吸っていた” という。

また彼は” 君が述べた SU-35 に関するこれらの問題は、数百億ドル規模の対中エネルギー貿易に比べれば、小さな問題だ。我々は逐一解決しつつある。我々は引き続き技術の交渉に集中する。大統領府と大統領本人が直接関わっているので、全て解決するはずだ” と述べた。

以上の談話から、SU-35 の対中輸出はすでに決定された、と見る事が出来る。しかもウクライナ危機後、プーチンは、中国との戦略的連繫を全面強化することを望んでいる。確かに大統領府主任の S.IVANOV が最近中国を訪問した。プーチン、IVANOV、連邦安全会議秘書長の決定は重要である。したがって軍事協力は、確かに最高レベルがけん引役になって行われていると見る事ができる。これらの談話から、習近平とプーチンは今年 5 月の会談で SU-35 に関する問題を話し合った可能性が極めて高い、と見るべきである。

ロシア航空工業界の権威筋は:我々は、プーチンが 11 月に北京を訪問した際に、SU-35 問題を有利に決着することを望んでいる。基本的な技術の問題、価格等の集中した協議は 7 月以降も継続して行われる。北京から技術者、空軍軍人、装備を担当する責任者等多くの人々がモスクワを訪問する、と述べた。

SU-35 の価格問題について

KDR は、2 月以前には SU-35 の対中輸出価格については合意していない、と聞いていた。これは、当時双方が交渉を急がないと述べた理由の一つであった。これに対してモスクワの消息筋は；基本的な価格に関しては、中国はすでに理解し賛同した。その理由は、SU-35 が SU-27 とは異なる全く新しい戦闘機であり、交渉方式も完全に異なること、エンジン、アビオニクス、レーダーから機体材料に至るまで全く新しい技術だから、と述べた。

また” 次に、我々は常に指摘しているが、10 年前と比べると、米ドルの為替交

換比率が低下している。中国側はこれを完全に理解している。したがって新型機であること、ドル価格が低下していること等々を考慮すると、SU-35 の対中輸出基本価格は、合理的であり、これに対して中国はすでに同意している”と述べた。

結局、SU-35 の対中輸出基本価格はどの位なのか？

これに対して、ロシア軍事工業界の権威筋は、初めて西側メディアに対して次のように述べた：おおよそ X000 万米ドルである、と。KDR は SU-35S のロシア軍向け販売価格が X000 万米ドル（省略符号）であることを知っていた。したがって、なぜこのように高額なのか？” おおよそ” の意味は何か？と質問すると、消息筋は：第一、ロシア軍の購入機数は 48 機である。しかし中国側の購入機数は 24 機である。これが最大の相違点である。次に、確かに中国側は SU-35 の改修を要求している。この改修には新たな研究、試験が必要になる。このほか基本価格は、最終価格ではない。したがって SU-35 の技術交渉は進行中であり、中国側の要求を我々は満足させることが出来る。次の段階は中国側と具体的な要求技術を協議することである。どのように改修するか？何を改修するか？等々である。交渉は全てロシア国家武器装備輸出入総公司航空部の主導の下で行われる、と述べた。また” 彼らは極めて効果的に仕事をしている” と述べた。スホーイ航空機会社は技術面の情報を提供している。

国家武器輸出入公司航空部（AIR DEPARTMENT）の主管は、長年 A.MIKHEEV が勤めていた。彼は、8 ヶ月前、ロシア聯合ヘリコプター総裁兼ロシア連邦武器装備輸出入総公司総裁航空顧問に就任した。” 彼は極めて優秀な交渉者であり、転任したとはいえ中国との SU-35 交渉には影響ない” ロシア聯合航空機集团公司（UAC）の権威筋はこのように述べた。

最終価格は、中国版 SU-35K の搭載武器及び細部の技術的交渉が全て完了した後、決定される。したがっておおよそ X000 万米ドル前後の価格は、中国側も基本的に了解している価格である。

現在の交渉に如何なる問題があるか？これに対して、多くのロシア軍事工業界の関係者は：第一に、如何に技術的改修を行うか？中国側は SU-35 に彼らが設計した武器システム、及びアビオニクスの一部を搭載しようとしている、と述べた。（KDR はデータリンクを含む可能性があると見ている）

” ANDREI、君は知っていると思うが、中国の要求に応じれば、SU-35 のハードポイントを変更する必要がある。航空工業界では、戦闘機のエアロダイナミックスの変更は微小な変更であっても重大事であり、大量の試験、試験飛行が必要になる。したがってまず第一に原型機から製作するのであれば、長い期間が必要だ。我々は、中国に対し、改修前の SU-35 の輸出を提案している。その後改修すべきである、と。しかし中国側は、中国の要求通り、ロシアで改修し

た機体を中国に輸出する方式を求めている。

次に、もし最初に中国版 SU-35 の原型機を製造するのであれば、この費用は誰が支払うのだろうか？また試験飛行の責任問題に関し、SU-35 は単座戦闘機であり、ロシアは中国人に試験飛行させることはしない。すなわち現在ロシアは中国版 SU-35 を未だ製造しておらず、試験飛行も行っていない、と KDR は判断する。この交渉は長引くものと思われる。

かつて中国に輸出された SU-30MKK は、最初は原型機（502 号）でありロシアで試験飛行の後、中国に輸出された。これに対し、SU-35 の輸出と SU-30MKK 原型機の輸出問題は全く共通性が無いとロシアは認識している。

確かに SU-30MKK は中国向けに設計された機体ではない。当時は一般的な輸出用機体として試験飛行を行っており、たまたま最初のユーザーが中国であったに過ぎない。また当時中国側は、中国版 SU-30MKK に対し更に後続の SU-30MK2 に対しても改修を求めないまま中国製武器システムを搭載した。

”武器システムを改修する場合は、ソースコード（設計プログラム）の変更が必要になる。中国人は、かつて官側のメディア上で、SU-27 戦闘機のソースコードを解読したと宣伝した。SU-35K の改修に際し、ロシアが中国にソースコードを提供することになるのか？

これに対してロシアの権威筋は：いかなる国家であろうとも、輸出国に戦闘機のソースコードを提供することはあり得ない。これは常識である。したがってもし中国空軍が SU-35K のために必要ならば、要求することによって、我々の支援を受けて改修することになる。これは我々側の要求であり、一旦中国側が同意すれば、我々は如何なる改修もできる、と述べた。

KDR は、ここに技術的問題が発生する可能性があると考えている。すなわち中国人は秘密主義なので、SU-35 にどのような武器を搭載するかロシア人に知られたくないと思うはずだ。

SU-35K にどのようなロシア製武器を搭載するのか？これは次の段階の交渉の重点事項である。中国の要求に基づいて、ロシア武器輸出入総会社とロシア戦術ミサイル聯合会社が協議を行うことになる。スホーイ航空機会社は、SU-35 の輸出を担当するが、搭載武器の輸出は担当しない。残念ながら英国のエアショーでは、西側の制裁により、ロシア武器輸出入総会社は 4 名しか入国ビザを認められなかった。ロシア戦術ミサイル聯合会社は同エアショーに参加しなかった。

数ヶ月前と異なる所は、中露両国の最高指導者が関わることによって、ロシアにとってこれらの問題は、決定的な重大問題ではなくなったことである。

修理に関して、KDR が知り得たところでは、中国は輸入した SU-35 の修理或いは大修理も含めて自前でやりたい希望があるが、それを言い出しかねているよ

うだ。なぜならば中国は SU-35 の修理を自力で行うことは不可能であるからだ。SU-30MKK/MK2 は中国が自力で修理しているが、その理由は、SU-30MKK/MK2 は、SU-27UBK と同じ汎用技術であり、ウクライナの支援が受けられたからである。

これに対してロシアは、” 中国の関心が修理技術にあることを完全に理解している。鍵は、投資にある。これが我々が一致して 24 機の輸入機数では少なすぎると主張する理由である、と述べた。SU-35 の意向書を熟知しているロシアの関係者は数量について” 意向書には 24 機+OPTION となっている” と述べた。消息筋は：SU-35 は全く新しい戦闘機であり、ロシア空軍に就役したばかりである。我々は SU-35 の修理問題で模索中であるが、困難な問題が存在する、と述べた。

いつ契約書に署名するか？

2013 年に、KDR がロシア国家武器装備輸出入総公司航空部主管 A.MIKHEEV を取材した際、今年中に契約できるよう努力している、と述べた。半年後の現在、交渉は明らかに加速している。しかし相当複雑な技術問題に関わるため、KDR の予想は慎重にならざるを得ない。中国の共産主義文化の要素を考慮する必要がある。ロシアはこの種の” 様板” 文化（形式主義）に精通している。中国は形式と贈答が好きだ。中国は 11 月の中露高層会談の雰囲気盛り上げるため、天然ガス交渉問題で譲歩し、プーチンを喜ばせたのだろうか？この種の可能性は知り得ないが。

117S 型航空エンジンの輸出に関して

中国国産のステルス機 J-20 の類の戦闘機用に、117S エンジンを単独で中国に輸出することが出来るであろうか？これに対して、ロシア消息筋は：中国空軍の従来のエンジン備蓄基準に基づいて 117S を輸出する、と強調した。過去、中国空軍が輸入した SU-27/30 型戦闘機機数と AL-31 エンジンの輸入機数の比例から分析すると、KDR の分析では 1 機の機体に 1 機の予備エンジンが当てられるようだ。

SU-35 の生産能力に関して

現在、ロシア空軍用 SU-35 の生産は、2015 年に終了する計画である。もしロシア空軍が更に多くの SU-35 を購入した場合、SU-35K の対中輸出に影響するであろうか？これに対して消息筋は：ロシア軍用の SU-35 生産と並行して、SU-35 の輸出に影響が出ないよう、現在生産ラインを拡大中である、と述べた。

上述の取材内容から見ると、中国空軍は、すでに SU-35 の輸入を確定したようだ。現在の問題は技術指標を如何にするかだけである。なぜ中国は輸入を確定

したのか？上述の取材内容の中露双方から見ると、SU-35 計画は政治的決定であり、中露の戦略協力のシンボルである。次に KDR がすでに報道したが、中国空軍は J-20 を戦力化する間、過渡的な戦闘機が必要なのだ。

最も重要な要素は、習近平自身の建軍方針、軍隊との関係等々である。彼は空軍出身の副主席許其亮大将と特に親しい関係にある。習近平の統卒の理念である”公務員の八つの禁令”禁酒令等は、許其亮大将が以前に空軍で行った改革に倣っている。彼は現在すでに習近平の重要な側近であり、失脚した徐才厚の役割を引き継ぎ、人事を担当している。軍事委員会の中に 2 人の空軍出身者がいる。これは未だかつて無かったことだ。習近平が空軍が好きなことは、彼の部隊視察活動を少し見ただけでも分かる。今年 4 月、習近平は空軍の機関、副師団長級以上の幹部と接見した。また空軍の指揮所を視察した。彼は国家主席に就任後、東シナ海への防空識別圏設定、東シナ海への聯合作戦指揮センターの設立等々の政治的決定を行ったが、これは空軍に関係がある。

最も重要なことは、この時の訪問で、彼が”航空と宇宙の一体化建設、攻防兼備の強大な空軍建設”を号令したことにある。KDR の予測が正しければ、中国は、速やかに宇宙軍を建設する可能性がある。しかも空軍の隷下にである。これは中国軍内の長年の論争に終止符を打つことになる：すなわち、宇宙軍は独立した兵種か？軍種と言えるのか？誰が指揮するのか？の問題で論争があったからだ。

2013 年 2 月、習近平は空軍を視察した。官が公表した写真は鼎新飛行場であろう。

2013 年 6 月、習近平は酒泉衛星発射センターを視察した。

今年（2014 年）4 月までに、習近平は 10 回軍を視察した。そのうち 3 回以上が空軍と宇宙軍の基地であった。

以上